

◎『すべて神の御霊に導かれる者は、神の子供である。』（ロマ書第8章14節）

# 新『教会通信』（2020年2月）

☆（聖書に今日を聞く）☆

伊豆イエス之御霊教会

牧師 三崎 紘

伊東市十足324-37

TEL 0557-45-3692

FAX 0557-45-7081

<http://izukogen.wonderful.to>

◎『汝<sup>つ</sup>こころを<sup>く</sup>盡してエホバ（主イエス様）に依り頼め  
おのれの<sup>さ</sup>聡明に依ることなかれ  
汝<sup>み</sup>すべての<sup>み</sup>途にてエホバ（主イエス様）を認めよ  
さらば汝の<sup>な</sup>途を直くし給うべし』  
（箴言第3章5, 6節）

ハレルヤ！

寒い日が続いておりますが、愛する兄弟・姉妹方には、お変わり無くお元気でご活躍の事と存じます。

今月は、上記の<sup>み</sup>聖言を<sup>て</sup>主題として<sup>した</sup>認めて参ります。

此の<sup>み</sup>聖言は、是までに主イエス・キリスト様のお<sup>す</sup>勧めに触れた者ならば、何方でもが既に<sup>す</sup>ご承知の神の御心であり御旨であります。

しかし、どうでありましょう？ 知識として知っているだけの者と、神様の<sup>しん</sup>真理を各々の<sup>お</sup>心に<sup>さと</sup>悟り、自らの生き方としてしっかりと日々の生活に<sup>お</sup>行為・行動を<sup>とも</sup>伴って取り入れ、常に神の<sup>ただ</sup>義しき道を歩み往く者とは、全く異なる者であると思われませんが、如何でしょうか？

◎『<sup>ち</sup>智慧を求め得る人および<sup>さ</sup>聡明を得る人は<sup>さい</sup>福なり』

（箴言第3章12節）

自らの<sup>い</sup>意志を以て強く『神の<sup>い</sup>智慧』を求め人、更にその与えられた数々の神様の<sup>い</sup>智慧に<sup>そ</sup>対して<sup>さ</sup>聡明に理解して悟りに至り、それらを日常生活の<sup>もと</sup>基として<sup>き</sup>絨毯の如くに敷き詰めて、<sup>そ</sup>其の上に活動している者こそ<sup>ま</sup>真に神に選ばれた幸いなる信仰者と言えます。

その昔、エデンの園に在って未だ一人身であったアダムに、神は園の中に在る<sup>ぜん</sup>善悪を知るの樹の果を食べてはいけない、もしも食べたら必ず死ぬ事になる、と<sup>き</sup>厳しく申し渡しておりました。

しかし、その言い付けに<sup>そ</sup>背いて、アダムは<sup>きん</sup>禁断の木の<sup>み</sup>実を食べて仕舞う事になります。

創世記第3章6節に依りますと

◎『<sup>お</sup>婦樹を見れば<sup>う</sup>食うに善く<sup>か</sup>目に美しく<sup>かつ</sup>且<sup>かし</sup>智慧からんが<sup>な</sup>為に  
<sup>う</sup>慕わしき樹なるによりて<sup>つ</sup>遂に<sup>そ</sup>其の<sup>み</sup>果実を取りて<sup>く</sup>食い  
<sup>また</sup>亦<sup>これ</sup>之を<sup>お</sup>己と<sup>とも</sup>偕なる<sup>く</sup>夫に与えれば<sup>く</sup>彼<sup>く</sup>食えり』

先ず最初に<sup>お</sup>婦（後にエバと命名）が、サタン（悪魔）の<sup>はい</sup>配下と<sup>お</sup>覺しき<sup>へ</sup>蛇の<sup>こう</sup>巧妙な<sup>ゆう</sup>誘惑に<sup>く</sup>負けて<sup>これ</sup>是を食べる事になります。

エバも夫のアダムから、その樹の果実に関する神の言い付けを聴いていたであろうと思われる節があります。

それは蛇の誘いに躊躇っている様子からで、その樹の果実を見て麗しく、綺麗で美しく美味しそうで、更には食べたなら賢くなれそうで何とも慕わしく思っているが、直ぐには手を出さず、考えあぐねた末に『遂に其の果実を取りて食い』と『遂に』と記述されている所から窺えます。

無論、エバにも罪がある事になります。

さて、冒頭の聖言とは少しばかり離れて仕舞いましたが、現代に生きる我らに的を戻して参ります。

私たちは此の地球上に、肉の者として生命を与えられました。

現代に生きる人間は、萬物の創造主であられる御方の事など丸つきり念頭に無く、人間として此の地球上に生命が与えられ生まれたからには、如何に心地よく、如何に利便性に富んだ生き方が出来るか、将来的には寿命に際限無く生き続ける道を探り、便利で快適に過ごせる此の地に永遠に生きたい、此の地球がダメならば、他の星でも良い、とする考えの者も学者達の中にはおります。

その昔アダムとエバがエデンの園に於いて蛇の誘いに乗って『智慧くなる為に』と、犯した罪の代償として得た人間の智慧であります。

勿論、神様が其の事に賛同なされる事は、絶対に有り得ません。

結果として神様は、創世記第3章に、次のように言われました。

◎ “女性は、出産の苦しみをする事になる” “男性は一生の間、労苦に依って土を耕し食物を得なければならぬ” “人は、土の塵から出来ているので、塵に還る事に成る”、爾来、人間は土の塵に消えて、新たに生まれ、苦勞をして働き、消えては生まれ、を繰り返しております。

人生を無限の欲望の中で生きて来た人類は今、確かに此の数十年の間に、驚く程の便利さや快適さを手に入れました。

移動手段の自動車、船舶、飛行機、等々も初期の不便を克服して近代的な備えが成されているのは、此処数十年来の事であります。

古来有ったと思われる身近な用具・用品の凡ては、近年、改良を重ねて見違えるような製品と成って各方面に用いられております。

今年、5 G (ファイブ・ジー、5th Generationの略)の時代到来、と言われているのであります。

1 (one) G が凡そ十年の間隔で、1980年(昭和55年)を始まりとして、今年、四十年を経て新しい世代に這入るとか。

世界中の者が手にしているスマートフォンの著しい進歩の今、手にしているのが第4世代と言われる物であり、その前(3G)がガラケーの世代で、いよいよ今年からワンランク上の便利さを加えた物に成るそうであります。

そこで予測される奇跡的發展の業は、既にマスコミを始め各業界の専門誌に取り上げられている事と思われ、必要の方はそれらをご覧になられると、さぞ驚く事もあるかと思われ。

いよいよ人間は、想像の域を広め、脳裏に描く凡ての映像が実現する時代の到来を確信して意気軒昂、萬物の創造主なる唯一神の存在なぞ胸中の何処にもありません。

しかし、聖書に記された神様の預言の記述は一つとして廢る事なく、日々進行し続けております。

例えば近年、世界の各地には民族問題が根深く存在し、何時かは此等の紛糾が世界的規模を以て炸裂しても可笑しくない現状であります。

マタイ傳第24章に記された末の世、亦その時に至る課程での現象、及び主のご再臨などに付いての預言が記されており、その中に民族問題が

◎『民は民に、国は国に逆いて起たん』(7節)、と記されております。

只それだけの記述であります、現実に今現在、香港や台湾問題、クルド民族問題、ウイグル族問題、クリミヤ人問題、ロヒンギャ民族への迫害問題、等々が連日マスコミに取り上げられております。

これ以外にも世界各地に存在する紛争は数多くありますが、国と国との争いが何時、世界戦争に發展するか神様以外には判りません。

第一次世界大戦、第二次世界大戦、で何千万人と言う戦死者を出して怖ろしい経験を経て来たにも拘わらず、人間は性懲りもなく再び戦いを起こす事は間違いありません。

我が国には、世界に珍しい戦争を放棄する憲法第9条が平和の象徴として在りますが、現政権で此の憲法を改めて戦争が出来る国にしようとしている事は、国民の皆が知る所であります。

無論、戦争が好きな人達が遣っていると言うのでは無く、飽くまで我が日本国を他国から守ろうとしているのでありましようが、軍備が整っていようがまいが、一度世界戦争に巻き込まれたら、今度始まる世界大戦に関しましては、結果は総てを失う事になります。

神様は、嘗て水を以て此の地上を滅ぼされましたが(ノアの方舟・大洪水)、此の次は火を以て滅ぼす、と仰有っておられます。

◎『されど同じ御言によりて(ノアの大洪水の時と同じ神の御言)

今の天と地とは蓄えられ、火にて焼かれん為に、

敬虔ならぬ人々の審判と滅亡との日まで保たるるなり。』

(ペテロ後書題3章7節)

世界各国に威容を誇って林立する大都会の高層ビル街も、神様のお怒りに触て滅ぼされる其の日まで、辛うじて保たれているに過ぎない、と仰有います。

現有する核兵器で、地球上の総ての国を何百回でも破滅させ得ると言われておる世界の軍備体制であります。

ここ十年余り、気象問題が深刻に世界の各地で取り上げられており、昨今、地球温暖化防止を目指す運動の象徴的存在として、スエーデンの十七歳のグレタ・トゥンベリなる少女が取り沙汰されております。

地球温暖化など全くの作り話<sup>フィクション</sup>だとするアメリカの大統領も、温暖化対策<sup>たいさく</sup>を採ろうとしない世界の企業のトップ達もさんざんな言われようで、彼女の前には正<sup>まさ</sup>に形無し<sup>かたなし</sup>であります。

米国カルフォルニアの山火事、ブラジルの森林火災、オーストラリアの森林火災(先月末、既に日本領土の三割が消失とか)、各地の集中豪雨<sup>かんぱつ</sup>、早魃、我が国では実感できない程<sup>きようい</sup>の脅威と成って世界を覆<sup>おお</sup>っております。

此等も、地球温暖化と無関係では無いそうです。

プラスチックごみ問題も、大きく声が上がっております。

生物の生存体系に大変な異変が生じていると言う事で、TVや新聞で盛んに報道されております。

昨今<sup>さつこん</sup>、急に新型コロナウイルスによる肺炎が中国から持ち上がり世界へと蔓延<sup>まんえん</sup>しつつあり、病気その物のみならず経済界にも波及し、喫緊の大問題化しつつあります。

西暦二千年以降に発生した流行性の病<sup>やまい</sup>には、西アフリカに感染<sup>かんせん</sup>が拡大し死亡率が80%とまで言われたエボラ出血熱があり、また重症急性呼吸器症候群<sup>しやうこうぐん</sup>(SARS)と中東呼吸器症候群(MERS)と言ったインフルエンザに似たものが次から次へと顕<sup>あらわ</sup>れて来た事もありました。

旧約聖書、詩篇第91篇7節に、此のような聖言が御座います。

◎『千人は汝の左に倒れ 万人は汝の右に倒る』

されどその災害は汝に近付くこと無からん』

此ら末世的<sup>まつせてき</sup>状態とも言える現象に付いては、人間の智慧<sup>ちえ</sup>に依る文化<sup>ちやうてん</sup>が頂点にまで到達しようとしてしている現代、此の紙面に記す事が出来ない程に多くが出現しておりますが、此処<sup>ここ</sup>では其れを一旦置くとしまして、冒頭<sup>ぼうとう</sup>に記しましたようにその聖言<sup>みことば</sup>を主体とし語らせて頂きます。

冒頭<sup>みことば</sup>の聖言<sup>ひとたび</sup>を今一度振り返ってみます。

◎『汝<sup>つ</sup>こころを盡くして神に依り頼め おのれの聡明<sup>さとりの</sup>に依ることなかれ』

汝すべての途にて神を認めよ さらば汝の途を直くし給うべし』

(箴言第3章 5, 6節)

此の主旨のお言葉は、聖書の至る<sup>いた</sup>処<sup>ところ</sup>に数多く見受けられます。

敢えて旧約聖書を用いましたのは、旧約も新約も同じ神様である事を明らかにすると共に、真<sup>まこと</sup>の神様は旧い旧い昔から、神を信ずる者<sup>ふる</sup>に対して、人間中心では無く常に全身全霊<sup>ぜんれい</sup>を以て神だけを畏れ敬<sup>おそ</sup>う生活<sup>うやま</sup>を求めておられた事を、しっかりと認識<sup>にんしき</sup>して起きたく思わされたのであります。

日本人には、生まれた時から真<sup>まこと</sup>の神様を教え込まれて成長なされる御方は、居られたとしても極少数<sup>ごく</sup>でありましょう。

私は、東京・世田谷の下北沢で育った時期がありますが、三軒茶屋から渋谷に抜けるバス通りを、夏の終わり頃になると偶像<sup>ぐうぞう</sup>の子供用祭屋台<sup>まつりやたい</sup>(山車)をゾロゾロと引いて歩いた事を思い出します。

私の家は、教会の子供家庭集会を開いている家庭でありました。

結構、世間とは異なる環境に置かれて居たとは思われますが、当時の私には、全面的に神様を信じて何事も神に導かれた途を歩む習慣は、未だ有りません。

『何事も、お祈りをして神様に聴いて頂く事。真剣にお祈りをしたら必ず神様は応えて下さいます』と、勧められて祈る習慣はあったとしても、神様の御心の如何を悟る迄には至っておりませんでした。

神様を信ずる事が出来るのは、霊言(異言)でのお祈りを朝に晩にお献げしたとしても、始めの頃は、自分の考えが成就する事を願っているに過ぎず、本当に神を頼るようになるには、多くの信仰的体験と苦悩と時間を経た後の事になります。

確かに、信仰はそれ程に無くても、願う事柄が適えられる事は有ります。

神様のお立場からしましたら、生まれたばかりの幼児の言う事は、なるべく聴いて応えて上げようとの親心でありましょうか。

成長するに従って、お祈りがなかなか直ぐには聴き応えられなく成って参ります。

神様は、その者の信仰の成長内容をご覧になっておられます。

何処まで神を信じ、何処まで神を頼り、何処まで忍耐が出来るとや否やを試されます。

信仰生活とは、神様からの試練(試み)と聖徒の忍耐との闘い、と言ったら言い過ぎでしょうか？

当初は、あれだけ聴かれ適えられたのに、時が経ってお祈りが聴かれなくなると、あれは只の偶然だったのだ、と思い込み、信仰から離れる者もおります。

神からの試練は、神のご愛である事が悟れる者は幸いであります。

我らが、苦しみ悲しみの中に在る時には、主イエス様も、我ら以上に苦しみ悲しみの中にお出でであられる事も判って参ります。

我らは唯、神の国に生まれて、神の国に国籍を持つ(ピリピ3:20)と言うばかりでは無く、神様の子供としての資格を基に育てられている事を忘れてはなりません。

此の地上に終末が近付いて来ると数多く顕れる世的なキリスト教では、聖書に記された神を信ずる“神の子”とは、“養子”である、と解釈しているようではありますが、**ロマ書第8章29節**の聖言を御霊に導かれて拝読する我らには、どう解釈しても、“実子”であるとしか読めません。

◎『神は預じめ知りたまう者を御子の像に象らせんと

預じめ定め給えり。これ多くの兄弟(姉妹)のうちに、  
御子を嫡子たらしめんが為なり。』

“嫡子”とは、正妻(本妻)の子で家督を相続する者、と広辞苑に記されておりますが、言う迄も無く“本家の長男”であり、これは我らが信ずる主イエス・キリストを示しております。主イエス・キリスト様を長男と為さるために、

◎『世の創の前より我等をキリストの中に選び、

御意のままにイエス・キリストに由り愛をもて  
己が子となさんことを定め給えり。』(エペソ第1章4,5節)

未だ世界が創造される以前から、神様は我らが神の子供となる事を決定なされておられた、と上記に記された通りであります。

つまり、**ロマ書第8章29節**に記された如くに、『預じめ神に選ばれた我らは、嫡子主イエス・キリスト様の実の弟、実の妹として、定まって』いる存在であります。  
もう一つ聖言を記します。

◎『かく汝ら神の子たる故に、神は御子の御霊を汝らの心に遣わし

【アバ父】と呼ばしめ給う。

されば最早なんじは僕にはあらず、子たるなり、  
既に子たらば亦神に由りて世嗣ぎたるなり。』

(ガラテヤ書第4章6,7節)

ですから、キリストに倣う者と成れ、似た者と成れ、と仰有るのです。

選ばれた我らに対する神の試練は、決して我らを篩いに掛けて祝福の座から蹴落とそうと為さったおられるのでは無く、何処までも永遠を偕にする神の実子として迎え入れる備えの為であります。

我らに対する試練は、我らの父なる神様の、御愛そのものであります。

さて、神様の実子となる為には、【水と霊のバプテスマ】を受けるように、ヨハネ傳第3章5節にて明確に指導なされる主イエス様であります。

何故、【水と霊】なのでしょう？ 【水と霊】でなければいけないのでしょうか？

主イエス様の十字架の御業に由って、新たに開かれた御救いがあります。

我らが神の子である事が、『世の創の前よりキリストの中に選び』とありましたように、世界が創造される前から定められていたのでありますが、それは『キリストの中』にと有る如く、主イエス・キリスト様の御働きの中に、と言う前提が在る事を意味しております。

その主イエス様、神の国に生まれる為に『水と霊を受けるように』と仰有ったのには十分な意味があります。

『水』は、**ロマ書第6章3節**に於いて

◎『汝ら知らぬか、凡そキリスト・イエスに合うバプテスマを受けたる我らは、その死に合うバプテスマを受けしを。』

洗礼場の水の中に、イエス之聖名に依る全身浸礼を受けた我らは、主が御血を流してお生命をお棄て下さった、その御血その物を潜り、我らも罪の贖いを終えたのであります。

『霊』は、神様ご自身が聖き霊であられ、主イエス・キリスト様も神の霊を戴く御方であり、我らも神の霊を受霊し、神様と偕に永世を生きる全き資格を得た者とされております。

旧約時代に、神の民として選ばれたユダヤの民族は、言葉通り神の民であり、神の子と成る為には、我らと同じ『水と霊』のバプテスマに与らねばなりません。

此の事は、ヘブル書第11章40節に明確に記されております。

私が此の教会通信を認めておりますのは、主イエス様の信者である聖徒方が、我らの神様の事を詳しく具体的に識り、もっと神様を身近に識ってそれらの知識を信仰の糧として、**テモテ後書第4章2節**で神様が使徒パウロを通して伝える聖言

◎『なんじら御言を宣傳えよ、機を得るも機を得ざるも常に励め、寛容と教誨とを盡して責め、戒め、勧めよ。』

上記の<sup>みことば</sup>聖言をしっかりと<sup>とら</sup>捉えて、<sup>ふくいん</sup>福音を語って戴きたいと願います。  
新型コロナウイルス<sup>はいえん</sup>肺炎には、教会の中で勝利して参りましょう。ハレルヤ！

(2020・2・3 伊豆イエス之御霊教会 牧師 三崎 紘 文責)